大島支庁情報誌

第99号(R1.12)

大浜海岸見はらし広場より　　撮影者：里村　強志

◆　令和元年度大島支庁地域密着研修(座学)に参加して…… 1
◆　令和元年度　奄美大島水土里サークル活動推進大会の開催！…… 3
◆　働く・学ぶ・遊ぶ『おしごとテーマパーク』開催！…… 5
◆　喜界町農業青年クラブ活動への支援！！…… 9
◆　「認知症を理解し一緒に歩む県民週間」講演会を開催しました！！‥12
◆　第3回奄美世界自然遺産推進シンポジウム「持続可能な観光」‥‥‥15
◆　統計情報……17

令和元年度大島支庁地域密着研修（座学）に参加して

大島支庁建設課　管理係　主事　上西祐樹

令和元年11月20日（水）大島支庁本館4階大会議室にて地域密着研修の一環として，「シマ唄とわたし」という講話に参加させていただきました。

講師は奄美市笠利町出身の中村瑞希さんで，簡単に講師の紹介をさせていただきますと，中村さんは叔父の結婚式でシマ唄を初めて歌われたことをきっかけに，小学校5年生のときに「大笠利わらべ島唄クラブ」に所属し，シマ唄を学び始められました。平成15年に奄美民謡大賞を受賞。平成17年に民謡民舞全国大会にて総合優勝である内閣総理大臣賞を受賞。平成18年には民謡フェスティバル2006においてグランプリを受賞されています。

現在は奄美市に在住されており，奄美の歴史や先人たちの想いが宿るシマ唄を次世代に大切に歌い継がれております。

私はこれまでシマ唄というものに触れたことがなく，どういった音楽であるのかとても興味がありました。講話の最初の方で早速唄を歌っていただけるとのことだったのですが，中村さんは歌う唄を決めてくるのではなく，その日の会場にいる方の表情，出会った印象から歌う唄を決めているということでした。

「　拝（うが）まん人（ちゆ）も拝でぃ知りゅり　神ぬ引き合わせに拝まん人も拝で知りゅり
果報なくとぅあらし給（たぼ）れ　汝（な）きゃが先々なんや　果報なくとぅあらし給れ　」

島唄は歌を1ばん，2ばんと数えるのではなく1ふし，2ふしと数えるそうなのですが，上記の1ふしをボードにお書きになってこの歌を始めに歌ってくださいました。

歌詞は「巡り会えた方々に幸せがおとずれますように」という内容であると説明をいただいた後，唄がはじまると中村さんのきれいで想いのつまった歌声に，呼吸するのを忘れてしまうほど魅了されていました。

「イトゥー」という唄では中村さんに指名していただき，中村さんの歌う横でチヂン（島太鼓）を演奏させていただけることになりました。とても貴重な体験をさせていただいたのですが，中村さんの歌声を邪魔だけはしてはいけないということに集中しすぎて，歌声が1つも耳に入ってこなかったので，またの機会があればチヂンを持たずしてこの唄をお聞きしたいです。

1時間という限られた時間の中で，唄も数曲唄っていただき美しい歌声に魅了されっぱなしであったのですが，私は歌声以上に中村さんの生き方や姿勢に感動しました。

唄だけでなく，中村さんから出てくるエピソードや言葉の1つ1つが美しく，
シマ唄について知識に乏しい学生や一般の方から，鹿児島市のほうに在住されているときには「シマの外にいる人間がシマ唄をうたってもいいのか」，また奄美市に帰ってこられてからは「なぜ伝統を残さないといけないのか，残す必要があるのか」という忌憚のない意見に対しても，自分の中でこれらの意見を排除するのでなく，シマ唄やシマの文化・伝統について学ぶ必要性について考え，こういった課題に真摯に向き合い，自らを向上させようとする生き方や姿に感心し，日々の自分自身の生き方や姿勢も見つめ直さないといけないと感じました。

シマ唄はもちろんのこと奄美ならではの活動等にもこれから積極的に参加したいです。

その他の参加者の意見・感想

- シマ唄のお話をわかりやすくつたえてくださり，美しい歌声も聞けて良かったです。
- 受け継ぐ伝統の唄があることの素晴らしさとうらやましさを感じました。
- お話，シマ唄の歌声ともに魅了され，あっという間の一時間でした。（歌声が素晴らしかったです！！）最後にお話のあった，なぜしまの文化を守らないといけないのかという問いに対する向き合い方に共感しました。
- 中村先生の「シマ唄は生きている歌詞」というのが印象に残りました。
唄の歌詞で，当時の唄ができた頃の生活風景や歌い手の気持ちが伝わってきて，奄美をより身近に感じる事ができました。先生の声がとても心地よく響いて，元気が出ました。
- 今までと違った視点の研修で良かったです。
島の伝統や文化をアイデンティティーと認識し，引き継いでいく活動を行う若者がいることを頼もしく思いました。そういう人たちをサポートし地域を活性化し持続していくのが行政の役割・課題ですね。

令和元年度　奄美大島水土里サークル活動推進大会の開催！

大島支庁農村整備課計画係　計画係長　木山俊彦

令和元年10月24日，奄美観光ホテルにて「令和元年度奄美大島水土里サークル活動推進大会」（以下，推進大会）を開催しましたので紹介します。

1　大会の目的

この推進大会は，農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮を図るために取り組んでいる「水土里サークル活動（多面的機能支払交付金）」の横展開と活動組織の意識向上ならびに水土里サークル活動の更なる充実・強化を図る目的で，県と管内5市町村（奄美市，大和村，宇検村，瀬戸内町，龍郷町）が主催し平成26年度から開催しています。今回で6回目となります。

2　大会当日の内容

今年度は，119名（うち活動組織：83名，各市町村：17名，事務局：19名）と大変多くの方が参加されました。

【推進大会会場】

はじめに，2つの活動組織①「須野潤いの水と畑を守り隊」（奄美市笠利町），②「秋幾環境保全会」（龍郷町）の方々による事例発表が行われました。

まず，「須野潤いの水と畑を守り隊」（以下，須野守り隊）の事例発表です。

活動区域内にある農業用施設（須野ダム，有機農業支援センターなど）や観光施設などの紹介からはじまり，須野守り隊の概要や草刈りや水路の泥上げ活動，さらには長寿命化活動による農道舗装や農村文化由来の伝統文化の継承活動などの活動内容も紹介されました。

最後に，須野集落公認キャラクター（？）「あおやマン」（須野集落区長）が現れ，須野集落のPRをおもしろ，おかしく紹介されました。

【発表スライド（須野）】

【発表スライド（秋幾）】

続いて，「秋幾環境保全会」の事例発表では，通常の草刈り，水路の泥上げの他に，老人クラブや婦人会による花の植栽活動，また，活動母体である秋名・幾里集落の代表するイベントのアラセツ行事（ショチョガマや平瀬マンカイ）を農村文化の伝承として取り組んでいることなどが紹介されました。

次に，鹿児島県水土里サークル活動支援協議会から「協議会からの連絡事項」と題して説明がなされました。

その中で，実績報告書の作成においての注意事項や問題点などの確認，円滑に組織を運営していくためのポイント，共同活動中に起こりうる事故や事故防止，保険加入の徹底などについて説明がなされました。

【協議会からの説明】

【記念講演】

最後に，今年初めての試みでありましたが，むらづくりアドバイザーの三善浩二氏よる「島の活性化を目指して」というタイトルでの記念講演を行いました。

農業農村の今後の目指す方向性や「交流から定住」につながる取組みをいかに生み出すかをユーモアを交えて話をしていただきました。また，奄美には，「観光」という資源を活かした「農」の取組みをすべきという提言もしていただきました。

3　最後に

参加者からのアンケートを集計した結果，今回の推進大会は有意義であったと回答した方が多数おり，今年初めて行った記念講演も，「笑いを誘う内容であっという間に時間が過ぎた」，「心がなごみ，元気が出ました」という意見をいただきました。

また，「水土里サークル活動に関する実例や活動を行った時の悩みなども聞きたい」という意見もあり，来年度の推進大会では，このような意見も踏まえながら，内容の構成など検討していきたいと思います。

働く・学ぶ・遊ぶ『おしごとテーマパーク』開催！

建設部建設課 技術調整係　土木技師　園田竜将

1　はじめに

令和元年11月17日に名瀬港観光船バースで『おしごとテーマパーク』が開催されました。（土木の日は十一月十八日→組み合わせて土木です。）

『おしごとテーマパーク』は，奄美に暮らす子供達に，地域に貢献できる仕事の大切さを伝え，島で働き暮らすことを促す目的としており，鹿児島県建設業協会奄美支部主催の「土木フェスタinあまみ」と，奄美市主催の「わらぶっくわ横丁」の共同運営により開催されました。大島支庁は共催者として「土木フェスタinあまみ」に参加しました。

2　当日まで

イベント準備は4月から始まり，企画・運営として「特定非営利活動法人　ディ」が音頭をとり，1回目の打合せで昨年の開催状況，課題点を報告し今年のイベント内容やスケジュール等を協議しました。その後も，主催者等による打合せを定期的に行い，11月上旬には出展者全体の説明会を開くなど準備を進めてきました。

開催にあたり，各種媒体による宣伝も行いました。

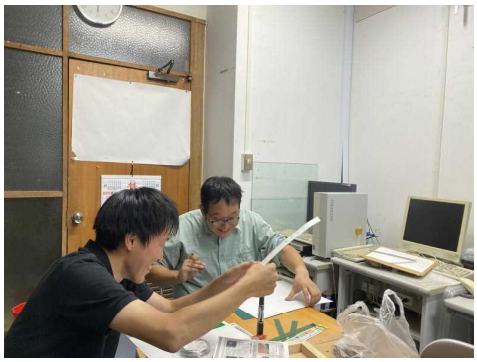
なお，今回初めて奄美テレビの「ゆむぐち800」の生放送に出演（奄美市役所・あまみFM参加）宣伝も行いました。

さらに，開催前日には，『おしごとテーマパーク』をPRする締めとして，あまみFMに生出演しました。今年は，大島支庁からは1人の参加という事で心細かったですが，建設業協会の方と楽しくPRできたので良かったです。

【地元新聞社宣伝】

【ラジオ出演者】

大島支庁建設部では，昨年同様ドボク模型の製作が始まりました。まず，何の模型を作るか話し合い，作る模型が決まったら材料の買い出しに行き，試行錯誤を繰り返し模型が完成しました。その後，当日までの間に模擬練習を重ね，各自本番に向けて準備しました。



【模型製作状況(大島支庁分)】

3　イベント当日

当日は，天気も良く会場の名瀬港観光船バースは，昨年同様に来場者数約7000人と多くの方で賑わいました。

土木フェスタと働く乗り物エリアでは，建設工事で使うバックホウなど多くの建設重機をはじめ，自衛隊の軽装甲機動車や警察のパトカー・白バイ，海上自衛隊の水中処分母船6号などの展示や試乗体験が行われました。

今年は奄美電気工事業協同組合の初参加があり，手作りの電気イライラ棒の体験コーナーでは，小さい子供から小学生まで行列が出来るほどの人気がありました。

また，メインステージでは，航空自衛隊中部航空音楽隊の演奏や測量器機による距離当てクイズ，働くお父さんの腕相撲などが行われました。建設業協会からは大正大学が開催した，「こども学」の方塊ブロック製作についての報告がありました。

この他，おしごと体験エリアでは，16団体での様々なお仕事体験が開催され，南海日日新聞社のブースでは，子供達が出展者にインタビューを行い記事を作成する一連の流れを体験していました。

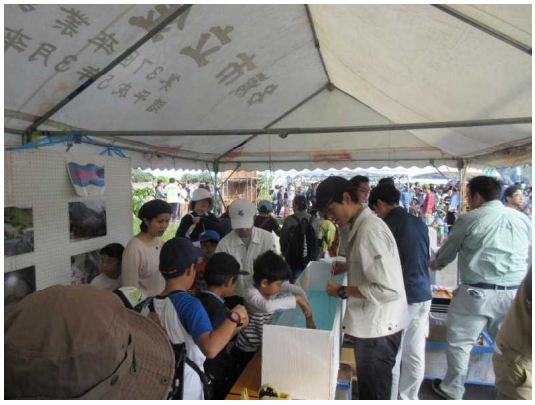
【バックホウ試乗】

【中部航空音楽隊の演奏】

【海上保安部公開訓練】

大島支庁ブースでは「建設業はみんなの命を守る仕事を行っている」ことを知ってもらうために，ドボク模型実験(法枠工と消波ブロック)の他，土石流模型実験などを行いました。始めは，緊張のせいか各担当者ともぎこちない感じの説明でしたが，次第に慣れてきて楽しく説明ができました。大島支庁が行う法枠工の実験では，山をダンボール，滑りやすい土をナット，法枠工を下敷きを使用して，法枠の有無により土の崩れやすさが変わるのかを再現しました。模型実験を行うたび，子供達から「なんで崩れないの？」，「おぉーすごい」などの声が聞こえてきて模型に興味を持ってくれて嬉しかったです。また，子供の中には，去年も模型実験に参加してくれた子もおり，「土木フェスタの中で模型実験が一番印象に残っている。」と言われた時は，「模型実験を行って良かった！！」と達成感に溢れました。次に瀬戸内事務所が行う消波ブロックの模型実験では，消波ブロックの模型を使い，ブロックの有無により波の大きさが変わるのか再現しました。消波ブロックの実験では，法枠工の時以上に子供達の歓声が聞こえてきて少し悔しかったですが，子供が楽しんでいる様子が見られたので良かったです。

【法枠工模型実験】



【消波ブロック実験】

また，今年はスペシャルゲストとして「ぐりぶー」が初めて参加しましたが，ここで1つ疑問が生じました。「奄美の子供達がぐりぶーを知らないのでは？」ということで，急遽ぐりぶーファミリーのペーパークラフトを作成・展示するとともに，ペーパークラフトの配布も行うことにしました。(作成時間は1体当たり約5時間でした・・・・)

当日は，ぐりぶーを見た時の反応が不安でしたが，予想以上に人気があり，ぐりぶーの周りは子供達で一杯でした。大島支庁ブースは，今年も大成功に終わりました。

【ぐりぶーファミリー大集合】

4　最後に

当日は，天気にも恵まれ来場者も7000人と『おしごとテーマパーク』は，奄美大島での一大イベントなんだと実感しました。

今回参加した子供達が大きくなったときに，仕事体験や試乗体験・模型実験で建設業のすごさや大切さを思い出して，建設業などの仕事に就いてもらえるよう今後も取り組んでいきたいと思います。また，今回イベントまでの一連の流れに参加して，上手くいかなかったこともありましたが，みんなで協力してイベントを無事行うことができ，良い思い出となり勉強にもなりました。

最後になりましたが，当日の対応はもちろんのこと，模型材料の買い出しや作成など忙しい中で準備を手伝ってくださった部・課はじめブース運営に携わってくださいました若手及び先輩方，本当にありがとうございました。

来年も『おしごとテーマパーク』を開催する予定ですので，今年来られなかった方は，来年是非，子供達と来てください！待ってま一す！

喜界町農業青年クラブ活動への支援！！
～将来の喜界島を支える農業青年の育成～

大島支庁農政普及課（喜界町駐在）　技術専門員　川畑強

1　背景

・喜界町において，農業は基幹産業である。
・奄美地域において，耕地の基盤整備率や畑かんの整備率が高く，また現在第2地下ダムの建設計画が進みつつある。
・高齢化が進む中，担い手が減少傾向にある。
・喜界町農業青年クラブの活動が再開された。（平成22年～）

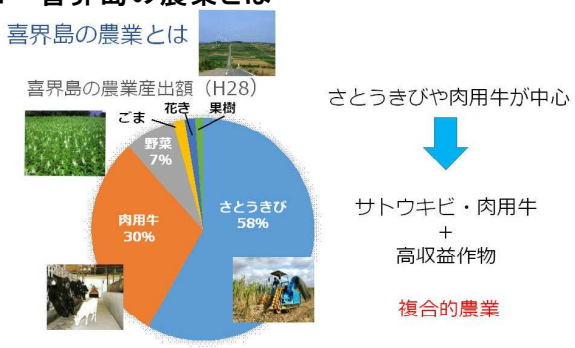
2　課題

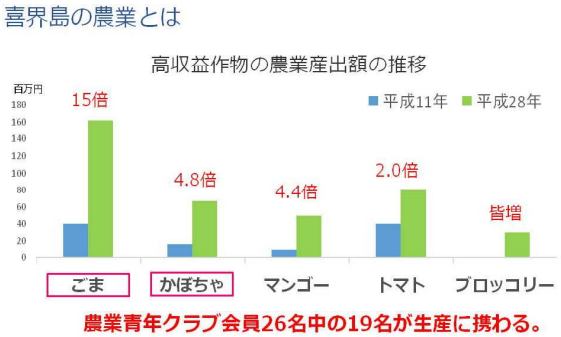
・畑かん利用による高収益な畑作農業の推進
・喜界島の将来を担う若手農業者の育成・確保が重要である。

3　目的

・今後の喜界町の農業と地域を支える担い手として期待される若手農業者の育成と確保を図るため，喜界町農業青年クラブへの活動支援を通したクラブの自主的活動，クラブ員の資質向上を図る。

4　喜界島の農業とは





5　農業青年クラブの活動支援内容

・支援対象　26名
・支援体制　役場，JA等の関係機関
・支援内容　話し合い活動の充実
・異業種間および学校連携活動への支援
　ア．農業体験ツアー
　イ．小学校課外授業，ハロウィンナイトの実施

総会で今年度の方針を検討

6　具体的な活動

・話し合い活動の充実
　ア．役場担当者等の関係機関と，話し合いの議論に対応した情報提供や指導助言
・異業種間および学校連携活動への支援
　ア．農業体験ツアー（H28～29）

【目的】①子どもたちに喜界島の農業について知ってもらう。
②農業の楽しさ，自ら生産した達成感を味わってもらう。
【品目】H28:かぼちゃ　　H29:ごま
【対象】島内の小中高生とその保護者，先生方　→　延べ33名

【成果】・かぼちゃ，ごまの魅力の発信
・農作業体験を通じてものを作る喜びと，大変さを伝えることができた。
・クラブ員間の連携や達成感が得られた。
・かぼちゃ，ごまの魅力の発信
【次は】・他の品目での実施
・販売への挑戦・他産業との連携

イ．ハロウィンイベントの企画（H30）

【対象】（授業の一環として）島内の小学6年生　→　63名

【内容】・体験ツアーの開催　かぼちゃの定植，管理

・イベント開催

初の試み

成長記録を教室に掲載

かぼちゃの生産は失敗

ライトアップしたランタン

農業青年クラブらしさの演出

イベントは大盛況

笑顔の参加者と会長

【成果】・イベントの開催

・可能性の拡大

・喜びの創造

7　活動の成果

（1）青年クラブ活動の活性化

自主的な話し合い活動を通したクラブ員の自主的な各種イベントの企画や実践によって，クラブ員間の連帯感の強化が図られるとともに，喜界島の農業振興の担い手としての意識が高まった。

（2）異業種との交流

ハロウィンイベントの運営を通して，喜界町商工会青年部との情報共有や，相互理解を深めることができ，喜界島を盛り上げていこうという機運が高まった。

（3）農業青年クラブ活動のPR（情報発信）

「認知症を理解し一緒に歩む県民週間」講演会を開催し，大島会場では，約300名の参加がありました！！

大島支庁健康企画課　健康増進係長　下原貴子

認知症を理解し一緒に歩む県民週間とは

認知症の正しい理解の更なる普及啓発や認知症高齢者等に優しい地域づくりに向けた気運の醸成を図るため，平成30年度に設定

（期間）世界アルツハイマーデー（9月21日）を含む一週間（日曜日から土曜日まで）

今年度は，令和元年9月15日（日）から21日（土）まで

認知症を理解し一緒に歩む県民週間講演会

今年度は，大島地区と北薩地区において，上記期間に，管内市町村とともに認知症の正しい知識や認知症高齢者等にやさしい地域づくりのための普及啓発につながるイベントを開催

＜大島地区における講演会等について＞

日時：令和元年9月20日（金）午後1時30分～

会場：奄美文化センター

○　講演

（演題）忘れても　一人ひとりが主人公

（講師）公益社団法人　認知症の人と家族の会

顧問（前代表理事）髙見　国生　氏

母親の介護体験等も交えながら，「6年後には65歳以上の5人に1人が認知症になると言われ，決して他人事ではない」「診断されたら隠さずに，一人で頑張らないで積極的に支援制度を利用して欲しい」と呼びかけた。

また，家族会（まーじんま）についても紹介し，「周囲とつながり協力して支え合うことが大切」「介護に後悔は似合わない，その時その時の精一杯でいい」「介護することはその人の人生を豊かにし，人間性を向上させる」等と締めくくった。

＜アンケートから抜粋＞

・ 現在，認知症の母親の介護中。少々疲れ気味だったが，介護する力（元気）をもらえた。

・ 家族で抱え込まず，社会，地域の助けを借りること，つながることの重要性を理解できた。

・ 介護の実体験をされた方ならではの説得力があり，胸に響いた。

○　島口寸劇

「あれ？と思ったら，あなたならどうする？」

（演者）金造一座（介護関係職員など7名）

＜アンケートから抜粋＞

・ ユーモアありの寸劇でとても楽しかった。一人で抱えず，家族や近所の方，たくさんの支えが必要だと思った。

・ 認知症の理解と同時に認知症の人に寄り添うことを考えさせられた。

・ 家族の思いや苦労が演出できていて分かりやすかった。また，問題解決につながる方法も一般の方は理解できたと思う。

○　パネルディスカッション

「本人・家族・支援者の想い」

テーマ　～つながれば希望が見えてくる～

パネリスト　家族（息子）の立場から

家族（夫）の立場から

支援者（ケアマネ）の立場から

＜アンケートから抜粋＞

・ 介護者の気持ちが変わっていく様子に胸が打たれた。

・ 介護することでご家族も人として素晴らしい人間になっていると思った。

・ 体験を通した発表はとても心に響いた。困った時こそ家族の思いやり，つながりが大切と分かりもし介護する立場になったら，病気をよく理解し，やさしさを忘れないで介護できたらと思った。

※　正午から下記の体験コーナー等を開設

・　認知症カフェ
・　認知症診断自己チェックシート答え合わせ
・　血圧測定，個別相談コーナー
・　タッチパネル型脳年齢測定コーナー
・　警察からの情報コーナー
・　消費生活センターからの情報コーナー
・　成年後見制度の情報コーナー
・　パネル展示コーナー

（管内市町村，認知症疾患医療センター，家族会ま一じんま，名瀬保健所等）

～ 講演会イベントを終えて ～ （担当者談）

限られた週間内の開催，会場の関係で平日開催となったため，集客が心配されましたが，管内市町村の周知協力（チラシ配布，ラジオ等）をはじめ，関係機関の協力，地元新聞への掲載の成果もあり，予想を上回る約300人の参加がありました。

大島支庁各所属からも多数参加していただき，ありがとうございました。

今回の実施にあたっては，3か月前の企画から市町村地域包括支援センターや認知症疾患医療センター（奄美病院）の担当者とともに，「どうしたら認知症の理解を深め，つながり合えるまちづくりができるか」について検討を繰り返し，パネラーとの打ち合わせをはじめ，寸劇もシナリオづくりから演者とともに1から作り上げることができ，作業は大変でしたが，楽しくやりがいがありました。

当日はさらに多くの関係者の協力を得てみんなで1つになって開催できたこと，本当に嬉しく，今後も関係者と協力して作り上げる仕事がしたいと感じました。

最後に，今回知り合った認知症家族会の方の言葉が「深イイ」と感じたのでご紹介します。**「認知症の介護は，人生の最後の場面に付き合っています。命には限りがあります。一日一日を大切に過ごしていきたいです。」**

第3回奄美世界自然遺産推進シンポジウム「持続可能な観光」～環境と経済の両立～を開催しました！

大島支庁総務企画課　商工観光係　主事　今村建太

◎概要・目的

令和元年11月23日（土）に大和村防災センターにおいて，第3回奄美世界自然遺産推進シンポジウム「持続可能な観光」～環境と経済の両立～を開催しました。

シンポジウムは，世界自然遺産登録を見据えて，若者から高齢者まで幅広い住民の機運の醸成を図ることを目的としています。今年度は，6月と10月にシンポジウムを開催しました。来年2月にも，瀬戸内町において，屋久島・沖縄との広域連携をテーマとしたシンポジウムを開催予定です。

【会場の様子】

◎オープニングイベント

シンポジウム開催にあたり，オープニングイベントとして大和浜棒踊り保存会による大和浜棒踊りの披露がありました。

明治35年頃に創始されて以来，毎年行われる豊年祈願祭で披露され，祭り最大の呼び物として，集落の若者によって継承されてきたとのことです。踊りは3部で構成され，【大和浜棒踊りの披露の様子】釜や長刀を使用した踊りは武術の型の実演のような踊りでした。

◎公開対談

小野寺浩公益財団法人屋久島環境文化財団理事長と，鳥居敏男環境省自然環境局長による公開対談では，世界自然遺産が登録延期になった背景や，今年2月の再推薦に向けた取り組み，奄美における観光について話しがありました。　希少種保護や外来種対策の強化，観光客の増加によるオーバーユースの問題を解決するために，観光客の利用をコントロールしていくことが必要になるといった意見がありました。

【公開対談の様子】

【パネルディスカッションの様子】

◎パネルディスカッション

パネルディスカッションでは，コーディネーターを松本俊一大島支庁長が担当し，パネリストとして，小野寺理事長，「奄美の宝」を次世代に繋ぐ議員の会事務局次長で大和村議会の勝山浩平議長，特定非営利活動法人ＴＡＭＡＳＵの中村修代表，奄美大島観光協会の越間得晴会長による意見交換が行われました。

また，鳥居局長には，アドバイザーとして登壇していただきました。

登壇者からは，体験型観光での取り組み，住民の暮らしと観光利用との両立に関する話や，集落の青壮年団の活動が盛り上がりを見せており観光客が増えつつあるといった話がありました。また，奄美らしい観光として，人の良さが挙げられるのではないかといった意見や，奄美群島の各市町村が観光で売りにできるものを見つけて，ブラシュアップすることが必要であるといった意見，オーバーユース対策としてルール作りを実施して遺産の構成資産を保護していくことが重要であるといった意見がありました。

◎最後に

前回，前々回に引き続き，今回のシンポジウムでも多くの方々に御参加いただきました。来年2月開催予定のシンポジウムにおいても，多くの方々に御参加いただければ幸いです。

統計情報

1　鹿児島県毎月推計人口

令和元年11月1日現在の奄美群島の人口は105,004人で，前年の同月と比べて，814人減少しています。

	県全体	奄美群島					
			奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
11月1日現在(人)	1,601,291	105,004	59,153	6,701	21,983	12,143	5,024
前年同月(人)	1,613,672	105,818	59,209	6,839	22,370	12,350	5,050
増減数(人)	-12,381	-814	-56	-138	-387	-207	-26
前年同月比(%)	-0.8	-0.8	-0.1	-2.0	-1.7	-1.7	-0.5

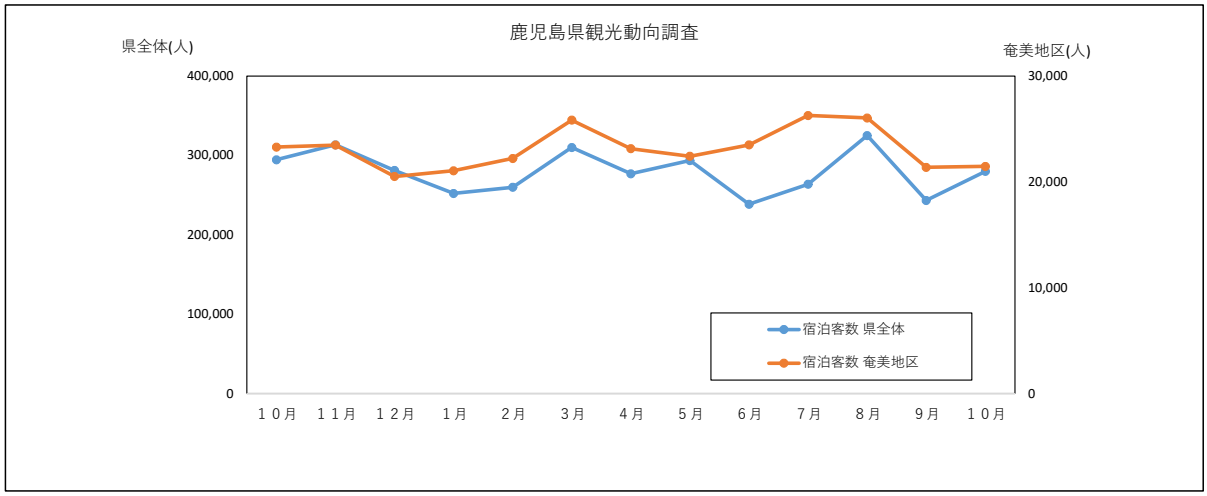
2　鹿児島県観光動向調査

令和元年10月における県内の調査対象ホテル・旅館77施設の宿泊客数（宿泊延べ人員）は，合計279,864人で，前年同月比 6.1%の減となっています。

奄美地区は，大会参加，修学旅行等の団体客が減少したため，前年同月比 7.8%の減となっています。

（単位：人，%）

	令和元年10月	前年同月比
県全体	279,864	△6.1
奄美地区	21,461	△7.8



3　大島紬

令和元年11月の生産反数は369反で，前年同月の生産反数332反と比較して11.1％の増加となっています。

	反数	男物女物別		染別						生産金額（千円）	累計	
		男物	女物	泥染	泥藍染	藍染	化学染料染	草木染	複数染料染		反数	生産金額（千円）
経緯絣	342	83	259	161	14	0	154	13	0	28,448	3,157	277,373
緯　絣	27	0	27	1	0	0	25	1	0	1,042	252	10,008
計	369	83	286	162	14	0	179	14	0	29,490	3,409	287,381